

化学と教育

第74巻 第6号 2026年 目次

ヘッドライン 日本の近代化学史・黎明期番外編

これまでの7回にわたるヘッドラインで、江戸後期から明治を経て、昭和の戦時期までの化学の歴史を、それぞれの時代の指標となるトピックをテーマとしてめぐってきた。しかし、そのような整理の枠組みでは、見落としてしまいがちな重要な人物やトピックも存在する。また、同じ人物であっても異なる視点から眺めることにより、その重要性がさらに認識できる場合もある。そこで本ヘッドラインでは、ある程度回数を重ねてきた中でこれまで触れられてこなかった人物やトピックを取り上げ、「近代化学史・黎明期番外編」をテーマとして4件の人物やトピックを扱う。

錬金術から化学まで —江戸時代の化学の呼称誌—	八耳 俊文	226
日本における近代化学・近代植物学の導入者 宇田川榕菴の図像科学史的考察	河野 俊哉	230
19世紀初頭の化学と「舎密全書」 榎本武揚と化学	東 徹	234
—獄中時代における石鹼・蠟燭製造法の執筆—	沼田 ゆかり, 醍醐 龍馬	238

◆ 化学教育 徒然草 授業における実験の価値 日比野良平		223
◆ 実験の広場 SSH ただいま活動中! 豊島岡女子学園中学校・高等学校 SSH の取り組み 水村 弘良		242
◆ 新・講座：クリックケミストリー クリックケミストリーの世界 —未来をつなぐ化学反応— 北山 隆		243
クリックケミストリーの進化と高分子化学への展開 小山 靖人		247
完全な官能基選択性の反応が可能とする創薬への応用 池田 朱里, 廣瀬 友靖		251

表紙の言葉 島根県立出雲高等学校

島根県立出雲高等学校は、文武両道を掲げ、学力と人間力の向上を目指す伝統ある進学校です。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されており、探究的な学びや国際的視野を育む教育が特徴です。地域や世界に貢献できるリーダー的人材の育成を目指し、生徒は学業だけでなく部活動や地域活動にも積極的に取り組んでいます。自ら課題を見つけ、考え、行動できる力を育てるカリキュラムにより、生徒は大きく成長していきます。

◆ 投稿

論壇

エントロピーの解説法（高校化学） 宮原 正樹，菅原 義之，山崎 義弘…………… 255

◆ 話題

中学校教科書における用語「脱炭素社会」の使用状況について 化学用語検討小委員会…………… 258

支部長賞受賞者のお知らせ…………… 261

◆ Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより…………… 266

◆ Color Gallery

ヘッドライン 日本における近代化学・近代植物学の導入者

宇田川榕菴の図像科学史的考察 河野 俊哉…………… 口絵 12

会告

△ 日本化学会から

2026年度各賞候補者の募集…………… 268

■ 行事一覧…………… 271

■ 編集後記…………… 274

次号ヘッドライン

第32回化学教育フォーラム
「AIは化学探究活動を変えられるか？」

〔令和8年度(2026年度) 化教誌編集委員会委員一覧〕

委員長	藪内 一博				
副委員長	兵藤 友紀	松岡 雅忠			
担当役員	石井 洋一	渡邊 賢			
編集委員	浅子 壮美	池田 俊明	岩井 秀人	尾身 洋典	河西奈保子
	熊本 卓哉	高見 聡	佃 俊明	西村慎之介	松浦 紀之
	宮本 一弘	村中 厚哉	山本 哲也	渡辺 真伍	